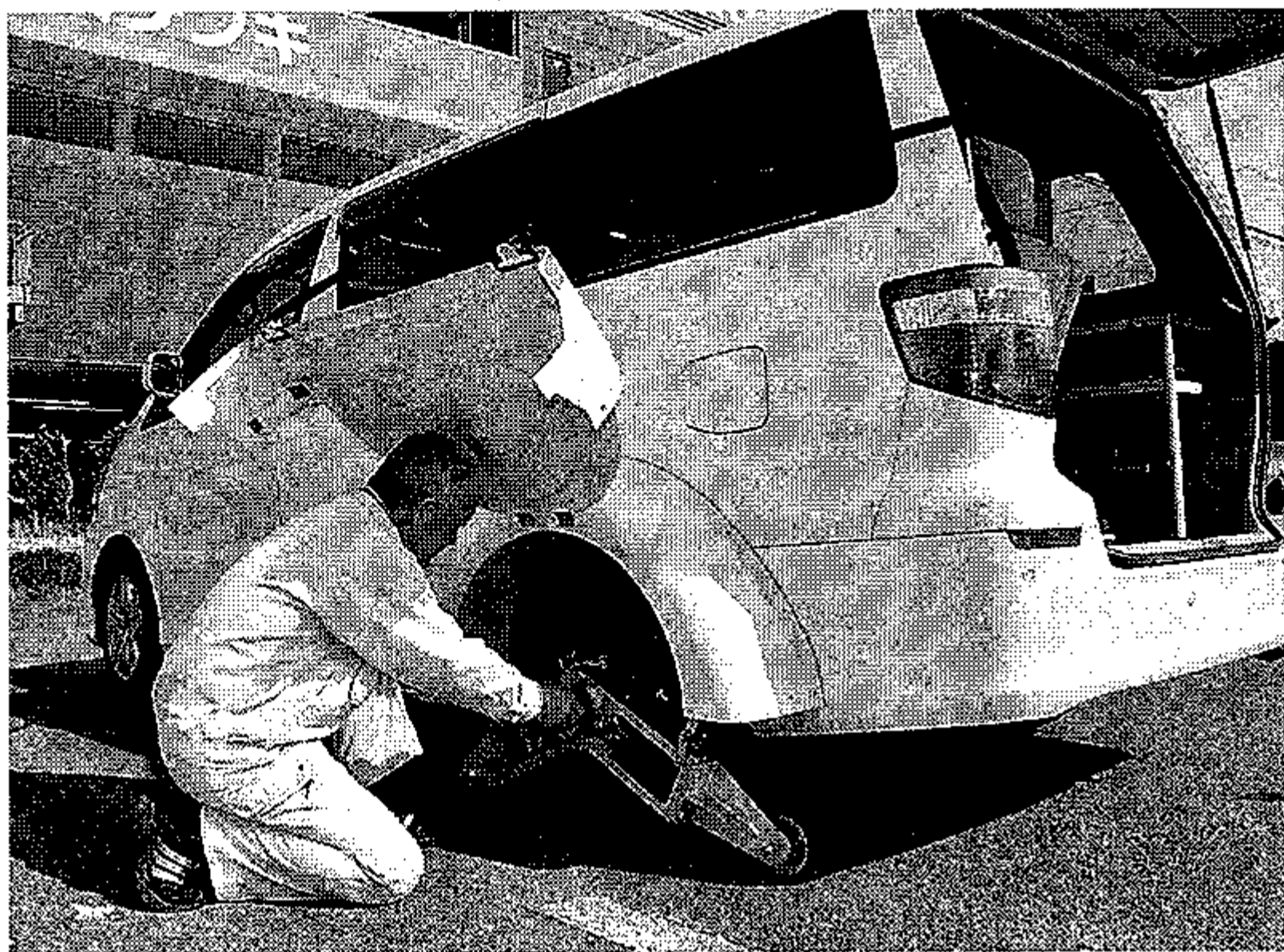


調査トコスト低 状態装舗

大日コンサルが開発した舗装の状態を調べる測定車

大日コンサルタント(岐阜市藪田南、篠井力社長)は、道路の平坦性、自動車の乗り心地を示す国際ラフネス指数(IRI)を測定する車両と、そのデータなどを基に維持管理計画を策定する方法を開発した。低コストで舗装状態を調べ、効果的な維持管理計画を策定できるのが特長。道路管理者に提案し、年間1億円の受注を見込む。

管理計画、効果的に策定



大日コンサルタントが開発した舗装の状態を調べる測定車
岐阜市藪田南

IRI測定車は、後輪に取り付けた計測装置でIRI値を測定すると同時に、助手席に設置したデジタルカメラで、10分間隔で道路の静止画を撮影。連動した二つのデータをパソコンで解析し、交通量などの道路特性を踏まえて維持管理計画を策定する。

路面全体の平坦性や、ひび割れなどの維持管理指数(MCI)を測定する従来の調査は1キロ当たり3〜6万円の費用がかかるが、同社が開発した調査は2〜3万円。データ解析も2分の1の期間でできるといふ。約2年

間かけて開発した。投資額は約1千万円。効果的な維持管理計画が必要。コンサルタント事業の新たな収益源に育てていきたい」と話している。

驚見幸吉取締役は「限られた公共事業予算の中で、優先順位をつけて補修するには低